

## 障害者支援 実態検証を 当事者団体、県に要望書

要望書の提出後、記者会見する中山さん（左から3人目）、小西さん（同4人目）ら＝県庁で



知的障害者の当事者団体「ピープルファーストジャパン」（事務局・奈良県三宅町）は二十日、相模原市の知的障害者施設「津久井やまゆり園」の殺傷事件の裁判員裁判が十九日に結審したことを踏まえ、県に対する要望書を黒岩祐治知事に提出した。

要望書によると、公判では、入所者の居室を夜間に施錠するなど同園の「不適切な支援」が明らかになったと指摘。支援状況の検証や「誰もがその人らしく安心して暮らせる地域社会の実現」を求めた。知事は「皆さまの目線に立った支援を実現したい」と応じた。

提出後に記者会見した中山千秋会長（52）は「報道されるのは（殺人罪などに問われた元施設職員）植松聖被告や（被害者の）家族の話ばかり。当事者の思いを知ってほしい」と訴えた。

横浜市を拠点に活動する「ピープルファースト横浜」の小西勉会長（55）は「なぜ事件が起きたのか裁判で明らかになると期待したが、今も明らかになっていない」と指摘。「（重度障害者が）意思疎通ができないと決めつけられたのは園の支援に問題があったのではないか」と問い掛け、「私たちは障害者である前に人間。自分の名前が言えない人でも心がある。意思疎通もできる。幸せをつくることができる」と訴えた。（杉戸祐子）